

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501392
法人名	合資会社三重福祉会
事業所名	グループホーム安東苑
所在地	津市安東町2004
自己評価作成日	平成 30 年 6 月 8 日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470501392-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人生の半分は自分の(時間)の為に、後の半分は人(社会)の為に」の母体の理念を念頭におき、ボランティア精神を大事にして利用者職員がいつも笑顔であるように「笑う門には福来る」を目標に掲げている。事業所の行事やイベント、運営推進会議、地区の防災訓練の参加などで地域との交流を図っている。主治医と連携しながら、看護師とスタッフ全員チームワークで本人や家族の希望に添って看取りケアも実践している。生活保護や地域のボランティアも受け入れており、職員は明るくチームワークを大事にし離職率も低く安定した介護を行っている。また、利用者の思いや意向の把握をする為、「ケア会議」など行い利用者の思いを引き出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して14年目の事業所は、地域のボランティアや生活保護の方を積極的に受け入れて地域福祉への思いを大切にしている。のどかな環境の中で 利用者の思いを大切にしながらの支援で、利用者の穏やかな表情や利用者同士、また職員との笑顔での会話場面は、全員の気分が安定し 日々を過ごしている事の現れである。敷地内に菜園を造り、なす・きゅうり等の野菜を利用者と共に栽培し、収穫時には食材の一助となっており、入居前の様に家庭的な環境の中での生活が送れるように配慮している事が、うかがえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念を念頭に置き目のつく所、数カ所に提示している。ボランティア精神と笑顔を中心掛けている。サブ理念の「笑う門には福来る」も心にとめ常に笑顔が見られる職場にしたいと心掛けている。	日々のミーティングや職員会議で理念の理解を深め合い、笑顔で和やかな雰囲気を利用して共に過ごせる様に心がけている。職員が、笑顔で季節の花を届ければ、笑顔で飾って頂け、日頃の会話も弾み、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての自覚を持ちゴミ集積所の掃除近所の喫茶店の利用。運営推進会議、夏祭りを通じて交流している。近隣の方から野菜の差し入れがあったり不要になった日用品を頂いている。	事業所の夏祭りの案内状を利用者と共にポストインクし、当日、多くの地域住民の方と交流が出来た事で、利用者に達成感と喜びが見られた。また隣接住民とは、毎日声を掛け合う関係にあり、地域とのつながりを大切に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方の受け入れ、運営推進会議への出席、夏祭り、地域の防災訓練の参加を通じて理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い意見を交換している。家族の人にも参加してもらおう様に声をかけ会議での意見等は職員全員で共有し、より良い介護に向けて努力している。	事業所の現状や課題、活動状況等協議し参加者からの助言もあり、協力関係は出来ている。出席者に認知症の方への理解も頂き、改善すべき点は速やかに対応しているが、家族の参加が無くなった。	事業所の課題を話し合い、地域の理解支援を得る為に参加者が積極的に関わられるように働きかける事が望まれる為、家族の参加をより一層呼びかけ事業所の取り組みを共に確認される事を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、協力関係を築く様にしている。現在1名の生活保護の方がいる。	介護認定更新時や生活保護による扶助、オムツ給付に関する申請や相談を随時している。住民から「地域の独り暮らし老人が大変である」と連絡があったと、行政からの依頼で受け入れる等、行政と連携し、情報交換もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言をしている。安全性を考慮して門扉の施錠はしているが日中は玄関の施錠はしておらず、いつでも自由に入出入り出来る様にしている。定例の検討会でも身体拘束ゼロと確認している。	身体拘束廃止宣言を行っており建物が車道に面して危険であるが、会議で話し合い玄関は施錠せず自由に出入りしている。月1回のヒヤリハット等を用いて検討した結果、自由に利用者が出る時には見守り・付き添い支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の介護の中で無意識的な物を含め虐待になってないか自己チェックや職員の間で意見を交換して虐待が見逃ごされない様、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を現在利用している人はいないが今後の活用も視野に入れて身につけているように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を用い読み上げながら説明し、運営者、管理者、介護職員専門員で行っている。不安疑問はその都度対応し利用者や家族から質問があった時は疑問点を調べる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見、要望を出せる様な雰囲気作りを心掛けている。利用者との安東苑会議で要望、希望を聞いて日々の会話の中でも見出している	利用者に寄り添い傾聴する中で、思いや要望を聞き出している。家族には面会時の会話の中で気楽に話し合える様に支援している。2ヶ月毎に開催する利用者出席の安東苑会議で「旅行に行きたい」との意見で、家族と共に日帰り旅行に出かけ喜んだ笑顔が見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員の検討会やミニカン、グループの代表者会議、グループのネット化など申し送りして反映している。	ケア会議・検討会議や日々の申し送り時に意見が出されている。自己評価も全職員が実施状況を記入し検討会で話し合い管理者が記入した。行事のマンネリ化を防ごうと意見があり、今年の夏祭りは新しいイベントの予定がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時に個々の職員の希望を取り入れてもらっている。検討会、ミニカンなどで意見を聞き入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	臨時研修の機会を確保し研修後は、すべての職員と研修内容を共有している。ステップアップをしていく体制や意識付けの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でインターネットを使いそれぞれの施設の取り組みを見て参考に出来る様にしている代表者会議をし、それぞれの施設の長所を学びあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人、家族と面談し病院、施設からの情報を元に要望、不安を聞きこれまでの経験を生かしながら傾聴と状況把握に努める様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに見学、面談を行い家族の不安、要望を話し合っている。より良い方向を探していくように心掛けている。入苑後は面会時や電話などで本人の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑希望の方の見学、問い合わせは随時受け付けており申し込みや契約以前の段階で必要な支援を行っている。その方に合ったサービスを支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の好みや歌、野菜作り、花の作り方、花の名前を教えたりしているその方の要望に応じられる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会はもちろん家族との外出も積極的に支援している。その際、日頃の様子、体調等の報告、行事への案内も行っている。家族宛てに3ヶ月に1回スナップ入りの季刊誌を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を聞き家族の協力の下、兄弟の家への訪問、お墓参り、美容院に行ってもらっている。友人、知人が面会に来られたときは本人との関係把握に努め再訪をお願いしている。	個々のアセスメント記録から生活歴や環境を理解し、思い出話を職員間で共有している。本人が希望すれば家族の協力で墓参り・以前行っていた店に外出できるように支援している。自宅でヘアカラーをして帰って来た利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が安心して関わりあえる様に、時に見守ったり、時に間に入って話題を提供している。食事席も考慮し、より良い関係性が作れる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も季節の野菜を頂いたり、その家族が職員として働いている。以前の関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中での何気ない会話、表情などをカルテに書き、毎日の申し送り時や月1回のケア会議で意見を交換し共有している。居室へ訪問し1対1になり思いを聴いたりしている。	傾聴で得た希望・意向はカルテに記入(表情・しぐさ・行動など)し、ケア会議や申し送りで全職員が共有している。2か月に1回 利用者本位の安東苑会議を行い意見や要望を聞き検討し、個々の生活課題を引き出している。七夕飾りの短冊の文字からも把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他施設、本人や家族からの情報を元に把握し職員の間で共有する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し本人の生活リズムに合わせた自由な生活が出来るように支援している。入苑者の日々の変化を毎日の申し送り、ケア会議で職員の意見を交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者を担当する職員を決め担当者を中心に毎日の介護記録を元にケア会議を行いより良いケアのあり方を検討した上で、その人にあったケアプランを作成している。	担当制で業務に取り組み把握した情報を月1回のケア会議や申し送りで検討し計画作成者が立案する。家族とは面会時に、医師とは受診時にケアについて確認し計画に反映している。また、3か月に1回のモニタリング、必要時に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、カルテへ記入している。本人の状態、思いを職員全体で申し送りなどで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて家族に連絡し家族に負担になる時は、こちらより受診や往診を頼んでいる。外出などの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災コーディネーターの救急法、消防署の防災訓練など行い安全に暮らしていく支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で以前からの病院を受診されている方もおられる。2週間に1回の協力医の往診を利用されている方もいる。協力医との連帯は密で緊急時にも気軽に対応してもらっている。	受診や通院は家族と連絡を取り対応している。協力医は、定期訪問診療が月2回あり、かかりつけ医と関係を持っている。看護職員が3人いる事で緊急時にも、かかりつけ医・協力医と連携し適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師、週1回の看護師が状態を把握している。休みの時でも電話の相談を行ったりしている。また介護士も利用者のいつもと違う状態の変化に気付ける様に注意を払い最低限の医療知識を身につけるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリで入院に至るまでの経過や薬の情報を知らせてもらっている。また、入院中は、折り合いを見て見舞いへ行き本人の状態と退院の見通しを把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人、家族の意向を同意書にそって説明、確認している。主治医と連携を取りながら出来るだけ不安や苦痛の少ない最期を迎えるように支援し共にチームで支援している。	「看取りケアマニュアル」を活用し看護職を中心に対応に関して方針を共有しており、チームで取り組んでいる。「看取りに関する同意書」は、契約時に家族に口頭で説明し状況変化時に再度、再確認して同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災コーディネーターの人に来てもらい定期的に救急救命法を学んでいる。急変時のマニュアルもあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の指導の元、避難訓練や消火器の使用方法、緊急連絡網を使って連絡をとる訓練など実際の災害時を想定した訓練を実施している。	災害時に住民の避難所として事業所の活用を促し地域貢献する事を自治会に伝え、協力体制を築こうと前向きに取り組んでいる。地域の防災訓練にも利用者に参加している。AEDの講習会には地域住民の参加もあり理解を深めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながら人生の先輩として敬い、誇りやプライドを損ねない様に心掛けている。	排泄時や衣類着脱時には、羞恥心を損ねない様に耳元で声掛けするなどの配慮をしている。ケア会議でプライバシーを損ねない言葉かけについて話し合い、目線を合わせて話を聞く等、気配りをしながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情、言葉のニュアンスで自己決定が出来るような働きかけている。難しい場合は選択肢を決定しやすい様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って生活出来る様スタッフの間で工夫しながら、1人、1人のペースを大切にしている。部屋に閉じこもりがちの人には無理なく他の利用者とのふれあいが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪、髭が伸びていないか気を配り声かけしたり介助している。正月には和装、夏祭りには浴衣を希望される利用者に着てもらっている。旭美容学校の学生さんの2ヶ月に1回のボランティアカットを受け入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が昼食時、一緒に物を一緒にの時間に話をしながら楽しく食べれるようにしている。料理の下拵え、味付け、盛り付け、配膳、後片付けなど、その方にあった事をしてもらっている。	食に関心を持ってもらう様に個々に合わせた献立を考えて提供している。食事中は懐メロを流し、会話をしながら和やかに食事をしている。また、外食や喫茶店に行ったり、流しそうめんも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人、1人の食事量を記入し刻みやミキサー食、粥や普通食など各人に合わせた形態の食事を提供している。食材は栄養管理された業者より届いている。食事量、水分量は個人に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕、歯磨きの声かけ、必要な場合は本人が磨いた後のチェックや仕上げ磨きをしている。義歯の方は洗浄剤等、利用している。近くに歯科医院があり受診されてる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や仕草に気をつけ、それぞれの排泄時間を把握して、声かけ、トイレに案内しトイレでの排泄が出来る様に支援している。羞恥心が損なわれない様に配慮している。	排泄チェック表を利用し、個々のパターンを職員間で把握し、紙オムツから徐々に、リハビリパンツ、パットへ変更支援し、定期に声掛け・トイレ誘導を繰り返した結果、布パンツで過ごせる自立者が6名となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄の日時を記録し水分摂取、散歩等を取り入れている。その方に合った便秘薬を主治医と相談し便秘にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限、週3回を基本とし身体状況に応じて、一般浴とリフト浴を使い分けて安全に入浴出来る様にしている。入浴チェック表で管理し日を変えて全員入浴出来る様、支援している。	週3回の入浴を基本としているが、本人の希望に合わせてその都度、対応している。体調により、リフト浴槽を利用し全員が湯船に浸かれる様に支援している。また、季節湯、入浴剤を使い、個々の思いに添った入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温、換気など気を配り、就寝、起床時間についても、その人に合ったペースで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は必要最低限の服用とし処方箋に記載された効能、用法をカードックスに記載している。服用チェック表を活用し臨時薬が処方された時は服用後何かあれば看護師や主治医に相談し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活一般の家事は個々の能力に応じてしてもらっている。お酒やタバコの嗜好品の提供、園芸好きの人には畑仕事、天気の良い日には苑庭にて青空カフェ、その他散歩、ドライブなどで気分転換していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、喫茶店、散歩、日帰り旅行など出掛ける事が好きな利用者と共に出掛けている。花見、紅葉狩り、外食などの機会を作っている。	庭に出て洗濯物干し、草木の水やり、野菜の世話等、外気に触れる機会があり利用者も楽しんでいる。家族の協力で日帰り旅行をし利用者、家族の楽しい時間になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて財布を持ち支払いされる。自己管理されて財布を持たれる利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイ電話を利用している方もいる。希望される時は宛の電話を使用してもらっている。年賀状や家族との手紙をやり取りもされている利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には手作りの日めくりカレンダーをかけ季節事の絵、花、飾り物、日々を意識出来る様居心地よく過ごせる様工夫している。	「ほっとする空間」と表現された各ユニットの居間やホールは、整理整頓され季節の花を飾っている。利用者は気の合う方と大きなソファで話をしたり、テレビを見たりして、居心地良く生活するための工夫がされている。また、菜園の作物、花から四季折々の季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等置き気の合う人同士が会話したり食事席など気の合う人同士が良い関係でいられる様配慮している。思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベット、タンス等を設置してもらい、それぞれ居心地良く過ごせる様にしている。家族の写真や花の好きな利用者には花を飾らせてもらっている。	使い慣れた家具、日用品、歌手の大判ポスター等持ち込まれ、利用者個々の空間を作っている。「ここは、ええとこやに」と案内してくれた利用者の言葉から、落ち着いて生活出来る居心地の良い居室の工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ浴室など必要な個所に手すりを取り付けている。場所がわかる様にトイレには大きく表札を書いており本人の居室の戸には本人が書かれた名前の表札など貼らせてもらっている。通路は余計な物を置かずテーブルや椅子の配置にも気を配っている。		